

第84回歴史探訪会結果（淀・納所）

～鳥羽・伏見の戦い最後の激戦地と二つの淀城を偲んで～

（日 時）：平成30年9月15日（土）

（コ ー ス）：京阪淀駅⇒淀小橋⇒井上源三郎埋首の地⇒妙教寺⇒唐人雁木⇒
（旧淀城エリア）

淀の水車⇒東軍埋骨碑⇒孫橋・淀大橋⇒長円寺⇒淀城跡・與杼神社
（江戸期の淀城エリア）

（参加人員）：33名（会員23名、一般2名＋スタッフ8名）

（歴探結果概要）

○ 前日からの天気予報では、「午後から雷雨の可能性もある」という予報であり、やや参加者は少なかったが、蒸し暑くはあるものの雨が降らずにすみしました。

○ コースは、鳥羽伏見の激戦地と東軍（幕府方）の埋骨地などを辿りながら、二つの淀城（旧淀城＝現在の妙教寺を中心とする、江戸期の淀城＝現在の與杼神社を中心とする）の外周を回り、城下の範囲をイメージする設定にしました。



○ 明治時代に川筋変更がなされ、宇治川は江戸期の淀城の北側から南側へ、桂川は西寄りに（與杼神社が川西から現在地に）、木津川が淀城の南から八幡市寄りに移ったことから、当時の地形をイメージすることは難しくなっています。



○ 最初に、旧淀城エリアの小橋から薬師堂跡、北城堀、南城堀へと回り、小橋では千両松慰霊碑を、また、北城堀の鳥羽のつくり道で愛宕茶屋埋骨地の説明を行いました。

○ 戦国期から淀君の時代に幾つかの城があったとされる旧淀城の跡地に建つ妙教寺は、先の21号台風によって山門が傾き扉や瓦に被害が出ていました。そのような中で、住職

のお話を聞き、本堂に残る東軍が発した砲弾の跡を見学しました。

- 更に、宇治川と桂川が合流し、淀川となる納所交差付近で、瀬戸内海から大阪経由で朝鮮通信使が上陸した「唐人雁木」跡や淀城内に淀川の水を汲み上げていた「淀の水車」の説明を行いました。
- 東軍がギリ貧となりながら戦った後を辿りながら、淀城の南端になる河津桜が育成する「孫橋」、更には木津川に架かっていたとされる「淀大橋」説明を行い、東軍の「野戦病院」となった長円寺へと到着しました。
- 最後に、與杼神社（淀城跡）を訪れ、宮司から重文級の御輿を含む3基の御輿の説明を受けました。



（報告者 伊藤義男）